

がんばろう日本

～亀岡市は平成28年(2016年)熊本地震被災地の復興を支援します～

April 2018

広報No.660

キラリ 亀岡

■亀岡市の人口と世帯数

		平成30年 3月21日現在	平成29年 3月22日現在
人口		89,529人	90,237人
内訳	男	43,608人	43,977人
	女	45,921人	46,260人
世帯数		38,684世帯	38,516世帯

主な内容

- 1ページ 夢をかたちに かたちを現実に かめおか新時代へ
- 2～3ページ 平成30年度当初予算の概要
- 4ページ お待たせしました!ますます便利に安全に～市道北古世西川線全線開通～

編集発行:亀岡市市長公室秘書広報課 / 〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地 / ☎0771-22-3131(代) ☎0771-24-5501
 ホームページ <http://www.city.kameoka.kyoto.jp> 電子メール office@city.kameoka.lg.jp フェイスブック <http://www.facebook.com/kameokacity>
 LINE@アドレス line://ti/p/@kameokacity ID @kameokacity

2月26日、平成30年3月亀岡市議会定例会が開会され、桂川市長が平成30年度の施政方針演説を行いました。市長は「本年度を次代に向けた歩みを進める重要な一年と位置付け、変化を恐れず積極的かつ大胆に、市政運営に全力で取り組みます」と決意を表しました。ここに、施政方針の概要をお知らせします。



市政方針演説を行う 桂川市長

平成30年、2018年は、明治150年の節目の年であり、亀岡から亀岡への改名150年を来年に迎える今、亀岡は変革の扉の先にある新しい時代に向かって確かな歩みを進めています。平成24年12月の候補地決定から5年、京都スタジアム(仮称)はついに植音を響かせ、平成31年の竣工に向け動き出しました。昨年10月に設置した「亀岡駅周辺エリアにぎわいまちづくり推進会議」、本年4月からの「第4次亀岡市総合計画(夢ビジョン)」後期基本計画シンボルプロジェクトなど、市民の皆さまと手を携え、スタジアムを核としたまちづくりを推進してまいります。

スタジアム着工 夢をかたちに かたちを現実に

平成30年度施政方針

夢をかたちに かたちを現実に かめおか新時代へ



京都スタジアム(仮称)建設地と亀岡のまち

時代の変化に応じ 「選ばれるまち」「住み続けたいまち」へ

私は市長に就任以来、「市民力で未来を拓く」を政策の基本に掲げてまいりました。平成30年度は女性100人会議、オープン会議などの実施を通じて、多くの市民の皆さまと対話を重ね、共にまちづくりに取り組んでまいります。昨年、本市住基人口が9万人を切りました。全国的な少子高齢化の進行を止めることは困難ですが、影響を緩やかにすることは可能であると考えております。本年4月から本市独自の「既存集落まちづくり区域指定制度」の導入、

京都府移住促進条例に基づく「**移住定住促進区域**」の指定および今後の拡大、本年秋の西堅町の古民家を改修した移住促進施設の開設など、地域活性化の拠点整備を進めてまいります。さらに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施するためのワンストップ窓口、子育て世代包括支援センター「BCOME」の活動、公立保育所および民間保育園の施設整備、子ども家庭総合支援拠点の設置などを進めるとともに、小・中学校施設の整備、小学校への外国語教育支援員の配置、図書館司書の派遣、小規模特認校制度の実施、放課後児童会の拡充など、子育て・教育で憧れのまちを目指した取り組みを進めてまいります。

亀岡150年 次代に向けた歩みを進め 新しいステージへ

都市間交流をはじめ同国と本市の文化・スポーツ交流について意見を交換し、大変有意義な場となりました。一方で、世界を見ると不安定な情勢であると言わざるを得ません。「世界連邦・非核平和都市」を宣言する本市としては、今年8月に「**第34回世界連邦日本大会2018 in 亀岡**」を開催し、世界恒久平和への想いを広くアピールしてまいります。新たな施策として本年1月、本市と民間企業の共同出資により地域新電力会社「**亀岡ふるさとエナジー株式会社**」を設立し、公共施設に電力を供給する地産地消型の地域電力事業を4月から実施いたします。地域内で再生可能エネルギーを消費し、資金循環の拡大による地域経済の振興や再生可能エネルギーの利用拡大を図り、世界に誇れる環境先進都市の実現を目指します。

また、「**亀岡市手話言語及び障害者コミュニケーション条例**」により、手話を言語として認識し、多様なコミュニケーション手段の普及を進め、誰もが支え合いながら豊かに暮らすことが出来る地域社会づくりを進めます。昭和63年3月30日の「生涯学習都市」宣言から30周年を迎える本年、記念事業の一つとして、名誉市民である故上田正昭先生が残された研究資料を調査し、(仮称) **上田正昭文庫の創設**を目指します。また、「石門心学」の祖、石田梅岩先生を顕彰し、「**梅岩の里生誕地整備事業**」を実現するための実行委員会を設置し、ふるさと納税による御支援をいただきながら、心学の聖地としての取り組みを進めてまいります。全国から本市へのふるさと納税が1月末で7,344件、3億6,257万7,000円、企業版ふるさと納税として小規模製菓株式会社様から3,500万円、合計で4億円近い額の御寄附を賜りました。なお、明智光秀像建立については、2,700万円を超える御寄附を賜りました。今後も、本制度を通じて本市と本市産品の魅力を全国に発信してまいります。本年5月、近畿の府県から111市の市長をお迎えし、「**第125回近畿市長会総会**」を本市で開催いたします。平成30年度を次代に向けた歩みを進める重要な1年として、本市の魅力や市民の皆さまの多彩な活動などを幅広く発信、シティプロモーションを積極的に展開し、「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の実現を目指してまいります。